

ステップ

18

レイヤー

「レイヤー」とは

画像編集をするうえで、選択範囲と並んで重要なのが「レイヤー」です。レイヤーを使う利点は、画像全体に影響を及ぼさず目的の箇所だけを編集でき、効率よく画像編集ができることです。

レイヤーの基本的な構造

解説 レイヤー

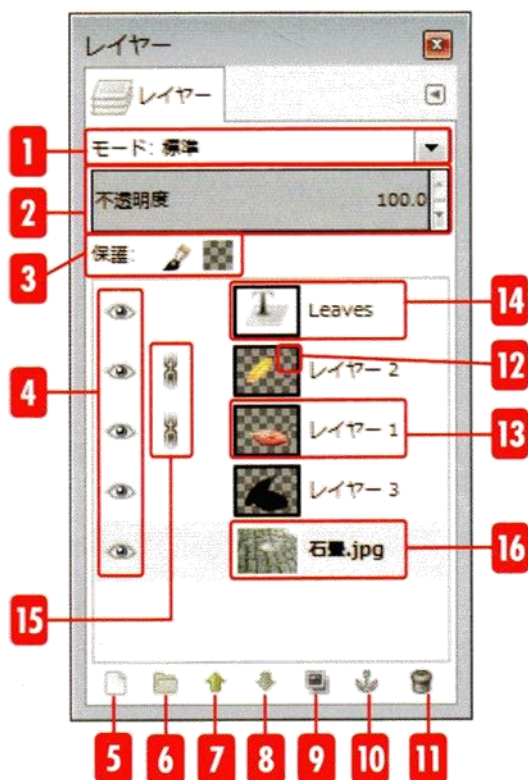
レイヤーとは透明なシートのようなものです。そのシートに写真や切り取った画像や文字を重ねることで、1枚の画像に見せることができます。

解説 レイヤーの構造

実際にはレイヤーは目に見えませんが、レイヤーが重なっている様子を図にすると、下から順に画像が重なっているようなイメージです。これを真上から見ると1枚の画像として見えます。このように層に分けることで、特定のレイヤーに対する編集が簡単にできます。



「レイヤー」ダイアログでレイヤーを操作する



1 モード

選択しているレイヤーと、その下のレイヤーを合成するための方法を切り替えます。本書では以下のモードを使用しています。

標準: 上にあるレイヤーの色が前面に表示される。

スクリーン: 明るい部分を白く、暗い部分は透明になる。

乗算: 色の重なる部分がより濃くなり、全体的に暗くなる。

焼き込み: 明るい部分はそのまま、暗い部分が強調される。

オーバーレイ: 色の濃い部分を強調し、明るい部分は透明になる。

ハードライト: 暗さと明るさのコントラストを強調する。

微粒結合: 下のレイヤーの色に、上のレイヤーの色が明るく半透明に重なる。

色: 下のレイヤーの色の部分にのみ上のレイヤーの色が表示される。

2 不透明度

レイヤーの不透明度を数値で調整する。数値を小さくするほどレイヤーは透けていき、「50」で半透明に、「0」で完全に透明になります。

3 保護

チェックを入れると、レイヤー全体または透明な部分への描画ができなくなります。

4 レイヤー表示の切り替え

各レイヤーの左側にある目の形のアイコンをクリック

して消すと、レイヤーが非表示になり、もう一度クリックすると表示されます。

5 新しいレイヤーを追加

現在選択しているレイヤーの上に、新規レイヤーを作成します。また「フローティング選択範囲」をレイヤーに確定させるときにも使用します。

6 新しいレイヤーグループを作成

レイヤーをまとめて収納するフォルダーを作ります。

7 レイヤーを前面に移動

選択しているレイヤーをひとつ前(上)に移動します。

8 レイヤーを背面に移動

選択しているレイヤーをひとつ後ろ(下)に移動します。

9 レイヤーを複製

現在選択しているレイヤーのコピーを作成します。

10 フローティングレイヤーを固定

画像を貼り付けたときにできる仮のレイヤー「フローティング選択範囲」を、その下のレイヤーと結合します。

11 レイヤーを削除

現在選択しているレイヤーを削除します。

12 透明部分

レイヤーの透明な部分はグレーのチェック模様で表示されます。この部分は下にあるレイヤーの画像が透けて見えます。

13 通常のレイヤー

新規レイヤーを追加するとできます。透明にできる性質(アルファチャンネル)のレイヤーも作れます。

14 テキストレイヤー

テキストツールで入力するとできるレイヤー。

15 レイヤーのリンク

この部分をクリックすると鎖の形のアイコンが表示されます。このアイコンで連結されたレイヤーどうしは、同時に移動や変形ができます。

16 背景レイヤー

通常のレイヤーとは異なり、透明な部分(アルファチャンネル)がないレイヤー。最初に開いた画像はこのレイヤーに貼り付けられます。

解説 「レイヤー」ダイアログの見方

レイヤーの状態は「レイヤー」ダイアログに表示されます。この例の場合は、5つのレイヤーが重なっていることがわかります。「レイヤー」ダイアログでは、上記のようなレイヤーの管理や編集ができます。また、現在選択されているレイヤーは、青色またはグレーで強調されています。